

広告特集 企画・制作 朝日新聞社広告局

【海の日】

今年から実施されることになった、14番目の国民の祝日「海の日」。
その趣旨は「海の恩恵に感謝するとともに、
海洋国日本の繁栄を願う日」というもの。
未来のために、子孫のために、豊かな海を護ろう――

海を渡り、東西を結んだ人たち①



私たちは古来より生命をはぐくむ海から、多大な恩恵を受け豊かさを實現してきました。しかし間もなく21世紀を迎えようとする今、環境、食糧、エネルギーなどさまざまな問題に直面しています。四方を海に囲まれたわが国は、これまで培ってきた海との共生の知恵を生かして、世界に貢献できるのではないのでしょうか。海の日を前に開催される「国際海洋シンポジウム」で講演される、作家の陳舜臣さんに「海を渡り、東西を結んだ人々」について伺いました。



陳舜臣

東西を結んだ人は多いが、たしかに記録をのこしてくれたのは西から来たアレキサンダーと、東から行った中国の使節たちが最初であろう。また宗教家たちもいる。興味深いのは、東方からの求法者は、インドへ行った法興、玄奘三蔵、義浄にしてもみな旅行記をのこしてくれた。日本から唐へ行った円にも、じつにわしい日記をのこしている。だが、反対に西から来たクマラジューにしてもダルマにしても一切旅にかんする記録はない。

求法者でも五世紀はじめの法興は、インドからの帰りは海路であった。海の旅にかんしては最古の記録であろう。スリランカからジャワで乗りかえての海の旅は、二百人乗りの船によったことなど、法興の記述以外になにも残っていない。その意味でもじつに貴重である。その三百年後の遣唐使の旅は、私たちにも親しみがある。鑑真和尚も琉球に漂着し、これがおそらく沖縄にかんする最古の記述であろう。

ちん・しゅんしん

作家・大塚外語学校印度語科卒業。母校の西岡アジア語研究助手を経て、一九六一年「法興の船」で第七回山田洋次賞を受けてデビュー。一九九二年「異域子書」で第六十四回読者賞を受賞。三篇作「阿片戦争」などの中国歴史小説で文壇へと作風を定めて、九三年「NHK大河ドラマ「琉球の風」」の書き下ろしを手がけた。ほかに「異域の風」「江は流けず」二大長編など著書多し。

国際海洋シンポジウム'96

International Ocean Symposium '96 (IOS '96)

開催日/平成8年7月16日(火)～17日(水)
開催場所/「東京ビッグサイト」国際会議場(東京都江東区有明)
主催/日本財団(財団法人 日本船舶振興会)
国民の祝日「海の日」を祝う実行委員会



日本財団は、祝日「海の日」の制定を機に「海は人類を救えるか」をテーマに記念講演、基調講演及びパネルディスカッションからなる国際海洋シンポジウムを開催します。パネルディスカッションは第一日目「地球環境と海洋―無限の可能性を求めて」、第二日目「海を越える文明」について行います。

【講演者】

【一日目】 ジャック・ピカル/奈須紀幸/石弘之/オーレ・ヨハーン・エスバット
紺野美沙子/平啓介/フランソワ・マンジュ
【二日目】 陳舜臣/大林太良/青木保/秋道智彌/田中俊子/瀧下武志
A.B.ラビアン (敬称略 敬不尚)

【募集要項】

定員:1,000名/1日
参加費(資料及び昼食代):1日2,000円、両日3,000円
申込み締め切り日:平成8年7月7日(日)

【応募要項】 参加希望者は住所、氏名、年齢、職業(所属部署名、学部名も)電話・Fax番号、参加希望日(16、17日及び両日)を明記の上、下記までFax又は郵送でお申し込み下さい。申込書受領後、確認書を送付いたしますので、期日までに指定の銀行に参加費をお振り込み下さい。なお、会場の都合上、先着順とさせていただきます。振り込み確認後、参加証/領収書を送付致します。参加証は当日、必ず受付にご提示下さい。

後援/総理府、科学技術庁、環境庁、外務省、文部省、農林水産省、運輸省、建設省、東京都、国際連合広報センター、国際海事機関、エネソコ政府間海洋学委員会、国際海事大学、朝日新聞社、テレビ朝日
お申込み/お問合せ先 日本財団 海洋船舶部 国際海洋シンポジウム'96実施事務局
〒106 東京都港区虎ノ門1-15-16 (船舶振興ビル8F) Tel:03-3502-2409 Fax:03-3508-2437



日本財団
The Nippon Foundation